

税理士

財務諸表論 直前ゼミ

(問題・解説・解答)



第76回財務諸表論（理論：答練内容）

令和8年6月 会計アカデミー（弥生カレッジ）

答練（回）	内容	過去出題実績 （年度・回）	答練のテーマ
第1回	棚卸資産	H24	低価法
	繰延資産	H26	資産の定義や、貸借対照表観との関係
第2回	のれん	H26	企業結合 概念フレームワーク
	損益計算書原則 収益認識	R4、R7	実現主義とリスクからの解放 収益認識の基本的 論点
第3回	減損	R3、R5	正誤
	重要性の原則		正誤
	税効果	H25	正誤
	概念フレームワーク	R1～R7 頻出	正誤
	減価償却	R4	記述
	有価証券	R1	記述
	純資産	R5	記述

第3回は公認会計士の試験問題を参考に出題可能性の高い論点を出題しています

上記以外では、引当金や包括利益の論点も復習しておいてください

会計アカデミーでは添削は実施しておりません

ChattoGPT や gemini など自身で自身の回答の添削を行うと参考になります

財務諸表論 直前ゼミ 1

第 76 回（令和 8 年）問題

初回につき、試験に臨むポイントを少し…

<ポイント>

①専門誌の模範解答は専門学校の講師数人が何度もチェックした解答です。あのような解答は本試験ではだれも作成できません。

②基準の言葉は厳密に

企業会計原則や会計基準の（）埋めの問題は厳密に書くこと

最近は選択肢の問題も多いので、その場合は取りこぼしをしないように

③わからないときでも下記の要領で作文で点数を稼ぐ

計算用紙で事前準備

主語と述語を意識して簡潔に記す。

形容詞を付け加える

「さらに」「これにより」などで追記する。

例：減価償却は費用配分の手続きである。

→減価償却は取得原価を耐用年数にわたって配分する手続きである。

→減価償却は取得原価を耐用年数にわたって配分する手続きである。これにより適正な期間損益計算を実現する。

目標時間は 30 分です。

できれば何も見ずに解答して下さい。もしもテキストみる場合でも「10 分程度暗記を行い」その後に「何も見ずに解答する努力」をしてください

今回のテーマ

①棚卸資産の会計基準の新旧比較、他の会計基準との関連などを問う問題です。

会計基準の横断的な知識の確認をしてください。

②繰延資産の定義から、貸借対照表観の歴史的変遷を問う問題です。企業会計原則と概念フレームワークの関連を問う問題は今後の主流になる可能性があります。

会計アカデミー（弥生カレッジCMC）横山

第1問 (1.①②各2点、2.10点、3.5点、4.各3点→合計25点)

1. 次の文章は棚卸資産の評価に関する会計基準(7項)の抜粋である。
①から②にあてはまる適切な語句を記入し、以下の問に答えなさい

通常の販売目的で保有する棚卸資産は、(①)をもって貸借対照表価額とし⁽⁷⁾、期末における正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額とします。この場合において、(①)と当該正味売却価額との差額は(②)として処理⁽⁴⁾します。

①	②
---	---

2. 下線部(ア)にある貸借対照表価額について、有形固定資産と売買目的有価証券は他の方法で評価する。評価基準の異なる理由を記しなさい。なお、次のキーワードを必ず使うこと。
<キーワード：概念フレームワーク、事業遂行上の制約>

3. 下線部について、当会計基準ができる前は例外的位置づけとされていた。これに関してなぜ例外とされていたのかの理由を示しなさい

4. 現行会計基準では例外ではなく原則となった。その理由を2点答えなさい。
なお、解答のうちの1つは他の会計基準との関連にも触れること。

①	
②	

第2問 (1. ①~④各1点、2. 4点、3. 各1点、4. 4点、5. 各3点→合計25点)

1. 次の文章は企業会計原則（注解15）（注解18）の抜粋である。
①から④にあてはまる適切な語句を記入し、以下の問に答えなさい

（注解15）

「将来の期間に影響する特定の費用」とは、すでに（①）が完了し又は（②）が確定し、これに対応する役務の提供を受けたにもかかわらず、その効果が将来にわたって（③）するものと期待される費用をいう。これらの費用は、その効果が及ぶ数期間に合理的に配分するため、経過的に貸借対照表上繰延資産として（④）。

①	
②	
③	
④	

2. 概念フレームワークの資産の定義を記しなさい

3. 平成18年に「繰延資産の会計処理に関する当面の取扱い」が発表された。この取扱いで繰延資産とされているものが5つあるが、その項目を記載しなさい。

①	株式交付費
②	
③	
④	
⑤	

4. 株式交付費について、会社計算規則では、株主からの払込額と相殺し、残高を資本金および資本準備金とする会計処理を示唆しています。しかし、この処理は当分の間は適用しないこととされ費用処理することとされた。その理由を企業会計原則の内容を考慮に入れて述べなさい

--

(※注解では株式払込剰余金と表記されている)

5. 繰延資産の資産性について、静態論・動態論・資産負債アプローチの観点から述べよ
なお、それぞれの会計観についても述べること。

静態論	
動態論	
資産負債アプローチ	